

八日市一柳公陣屋跡



八日市に一柳公陣屋敷跡がある。

一柳氏は秀吉や家康のもとで活躍した直盛を祖とする。直盛は永年にわたる功績から寛永十三年（1636）、伊勢神戸から伊予西条に転封となる。しかし、直盛は西条に向かい途上で死去し、遺領は三人の息子が分割相続することとなる。

長男の直重は伊予西条藩を相続し、二男の直家は伊予川之江藩（後に播磨小野藩）を、三男の直頼は伊予小松藩をそれぞれ立てた。

西条藩の直重は正保二年（1645）に死去し、遺領は二人の息子が分割相続する。兄の直興は西条藩を相続した。弟の直照は5000石を分知され、のちに津根村八日市に陣屋を構えた。これが旗本一柳家の始まりである。2代目の直増は、宝永元年（1704）に播磨高木へ移封となり、八日市陣屋もその役割を終えた。